

令和元年11月20日

羽生市議会議長様

代表者氏名 さつき会 会長 丑久保恒行



令和会 会長 増田 敏雄



行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施したのでご報告いたします。

記

1. 視察日程 令和元年10月29日・30日
2. 視察項目 香川県丸亀市は、防災まちづくり活動について
高知県高知市は、全国市議会議長会研究フォーラム
3. 視察参加者 さつき会 丑久保恒之・松本敏夫
令和会 増田敏雄・江原博之・西山丈由
4. 視察概要

1) 香川県丸亀市（防災まちづくり活動について）

香川県丸亀市川西地区のコミュニティセンターを視察。「安心して住んでもらえるまちを目指して」を合言葉に、防災まちづくり大賞3冠を達成した地区であり、「防災日本一からまちづくり日本一」を掲げている地区である。地域づくり推進協議会会長であり、コミュニティ自治会長でもある岩崎会長、ほか多数の関係者の皆様が歓迎してくれ、特に、会長自ら説明してくれた。

2) 高知県高知市 会場 高知ちばさんセンター 全国市議会議長会研究フォーラム

全国から3,000人余りの市議会議長・市議会議員他関係者が参加。まず、最初に、主催者である全国市議会議長・大分市議会野尻会長の挨拶から始まり、各界の代表者の挨拶となる。

第1部基調講演に入る。「現代政治のマトリスクーリベラル保守という可能性」と題し、中島岳志東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の講演

から始まる。

その後、第2部においては、パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」と題し開催した。

コーディネーター 坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

パネリスト 高部 正男（市町村職員中央研究所学長）

横田 響子（株式会社コラボンボ代表取締役）

古川 康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛（高知市議会議長）

以上

さつき会・令和会合同視察

令和会 増田 敏雄

■香川県丸亀市川西地区

・防災まちづくり活動について

防災のまちづくり大賞、総務大臣賞、防災功労者内閣総理大臣賞など多数の表彰を受けていることから、立派な組織運営に驚いた。

自治会出身の私としては、大きな衝撃をうけました。世帯数約2,200、自治会加入率60%ですが、組織の完成度が高いと感じた。総務部、環境部、人権部、福祉部、保健部、体育部、青少年健全育成部、防災部で、約120名の組織で構成されている。さらに驚くことは、自治会費の他に地区費として1世帯1,000円を徴収していることである。私たちの地区では、考えられないことである。また、防災用品も、質と量に驚いた。多数の防災倉庫には、3相200Vの発電機2台に、100V発電機19台をはじめとする給電・照明器具や、救出・救護用品、炊き出し用品、備蓄食品（玄米2,400kgなど）・避難所生活用品（段ボールベットなど）、避難所設営用品、情報・通信機器（無線基地局1台、無線端末33台、携帯ラジオ8台）、土のうステーション6地区に約200個づつ、救出用防災ステーション11カ所、企業備蓄ステーションに大量の水。毛布、店舗・住宅備蓄ステーションにも大量の水、搬送用の軽トラック、リヤカー、自転車、台車、大型浄水器など

東日本大震災では、丸亀市から1円も援助も得られないにもかかわらず、川西地区だけで500万円の寄付金を集めて、30人体制にて東北地方に救援・炊き出しボランティアに行ったとのことである。また、熊本地震、広島、岡山の水害の時も救援に行ったとのことである。

さらに、防災講座や、小学校・中学校・高等学校と連携して、しつこいくらいの「防災訓練」を繰り返し行い、いつ来るか分からない大地震に備えている。

羽生市においても、見習って強靱な自治会をつくらなければいけないと思った。公助に頼るよりも身近な共助が、1番大切である。

■第14回全国市議会議長会研究フォーラム
場所・高知ちばさんセンター

全国の市議会議長の皆様が、一堂に会して議会改革や防災対策、女性議員を増やす対策など新しい市議会運営について多数の優秀なパネラーによる高度な講義を受講した。

特に、印象的なのは「自治の主役」にふさわしい人物にならなくてはならない。との事である。

議会は地方自治、自主の主役である。民主主義の学校でもある。人間として、教養、学力、知力、人間力、正義力、責任力、行動力のある人物が、市議会議員になるべきである。羽生市もそうあるべきと感じた。

当然、その分の責任は重く、全ての議決にあたって公明正大で説明可能な判断を求められている。私は全力で羽生市の発展のために頑張っていく。

羽生市議会「さつき会・令和会」合同行政視察報告

令和会 江原 博之

1 目的 議員としての資質の向上と災害に強いまちづくり推進のため

2 研修先

(1) 香川県丸亀市川西地区（防災まちづくり大賞受賞）

① 川西地区の概要

川西地区は丸亀市の南東部に位置し、気候が温暖であることから「ため池」が多く散在し、近くには一級河川である土器川（どきがわ）が流れている。川西地区は、旧川西村が1954年丸亀市と合併し誕生した地区で、近年新興住宅が建ち新住民が増えている。しかし、自治会加入率は年々低くなり、平成26年には41.5%となった。従って地域コミュニティづくりが課題であった。

② 川西地区の取り組み

川西地区では、地域コミュニティづくりとして、「川西地区地域づくり推進協議会」を立ち上げ、その活動の核として南海トラフ地震を見据えた防災活動を始めたとのことであった。



③ 川西地区の自主防災組織

1995年3月に、岩崎正朔氏は「地域自立」と「協働の精神」を基本理念として“地域づくり推進協議会”を立ち上げ、2001年8月の兵庫県の北淡町役場（阪神淡路の震災跡地見学）への防災研修を経て、「我命、我地域は、我々の手で守るしかない」という強い決心で同年自主防災会を立ち上げた。そして、2004年“地域づくり推進協議会”に防災部会を立ち上げ本格的な自主防災活動を開始した。

④ 活動のスローガン

- きれいで住みやすい町づくりを目指す
- 健やかに伸び伸びとした子ども達を育てるためコミュニティと学校との連携を深める
- 健康生活のベースとなるスポーツ活動、野外活動を積極的に計画し“元気印の川西”の構築
- 手作りイベントによる地域活性化と住民同士のつながりを深める
- 明るく、楽しいコミュニケーションあふれる町づくり
- 自主防災を確立するため積極的な訓練実施と防災備品の充実を図る

⑤ 組織

川西地区地域づくり推進協議会では、その事業を総務部・環境部・人権部・福祉部・保健部・体育部・青少年健全育成部・防災部の8部に分担し年間を通して活動している。

【岩崎正朔会長の話】

比較的、災害の少ない香川県。そこで生まれ育った人にとっては、「大きな災害に備えて」という意識や、我が事という感覚は、まだまだ薄い。けれど、ある意味仕方ないのかもしれない。だからこそ備えというのは、やっておいて多すぎることはないと思います。起こってから対策を、では遅いんです。勉強すればするほど、南海トラフの恐さが分かってきました。もちろん災害は、地震・津波だけではなく、最近あちらこちらで多く発生している局所的な大雨や、以前はあまり馴染みのなかった竜巻。新たな防災方法を伝えていく必要性もありますし、ますますご近所さん同士の横の連携が必要になってきます。



しかし、隣人の顔すら知らないという希薄な関係が根付きつつある現代。数々の賞をとり“川西地区といえは防災”という認知は広がっていますが、今後ますます取り組んでいきたい活動は、現代のこの希薄な関係を打開して住民同士の連携をもっと濃いものに！という“まちづくり”です。町内イベントや活動を行い、普段からコミュニケーションをとれるきっかけを設けてはいますが、一方では、ご近所付き合いは面倒だという声があるのも確か。しかし、交通手段すら寸断されてしまうほどの“いざという時”に助け合える関係が住んでいる土地にないのは、とても不安なことだと思います。

自治会に加入する人が減少する中、ぜひご加入いただきたい！という呼びかけがあるのは、自治会と個人の“お互いのためになる”から。

一軒一軒名刺を持って回るのは大変な作業ですが、理解してもらえるように地道に頑張っています。」とのことであった。防災を核とした地域コミュニティづくり、日本一と言われることがよく分かった視察研修であった。自治会加入率も令和元年に41.5%から55.1%になったそうです。

羽生市にも市内9地区に地域協議会が設置され、協働によるまちづくりが進められている。しかし今後は、川西地区のようなボトムアップ的な活動が求められているのではないかと感じた研修であった。



(2) 第14回全国市議会議長会研究フォーラム（高知県高知市）

この会は、全国の市議会議員と東京都区議会議員が対象となる全国規模の大会である。今回は高知市で開催され、2,200人余りの議員が参加した。埼玉県からも200人程度の参加があった。

基調講演として、「現代政治のマトリクス - リベラル保守という可能性」と題して、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の中島岳志先生の講演があった。リベラルとはと少し難しい内容で始まったが、「人間は不完全で間違いやすい。だから他の人の意見を聞くことが大切になる」等々、うなづくことばかりであった。一年生議員としてとても参考となる講演であった。



さつき会・令和会合同視察

令和会 西山 丈由

◎香川県丸亀市川西地区自主防災会

町を活気づけるために始めた事業とはいえ、災害に備えた備品、道具については完璧であった。これまで被災にあったすべての場所にボランティアとして助けに行くことは、そう簡単にできることではないと思う。川西地区自主防災会に心から敬意を表します。

教育現場との連携や、企業とのコラボレーションなど地区が一体となってそれぞれ協力して真剣に防災活動に取り組んでいることは、私たちも見習うべきだと思います。

ここ数年、毎年のように災害が日本列島を襲っている。災害が少ない羽生市とはいえ安心は出来ない。

岩崎会長を中心とした川西地区のようにはいかななくても、それぞれの地区で防災に対する意識を改めて考え直す必要があると思います。

◎全国市議会議長会研究フォーラム

予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

まだまだ勉強不足でわからない事だらけで申し訳なく思っています。

しっかり学んで、一日も早く一人前の議員になれるよう頑張ります。